

ナノ学会主催「ナノバイオメディシン部会研究会」のお知らせ

下記の内容で研究会を行いますので、聴講を希望される方は事務局まで連絡をください。
研究会開催の予算が分子科学研究所から手当てされておりますので、予算の範囲内で先着順で旅費を支給させていただきます。

テーマ：細胞核内反応の分子科学

日時：2014年9月27日

開催場所：岡崎コンファレンスセンター(東岡崎)

主催：ナノ学会ナノバイオメディシン部会

〔副部長 名古屋大学 宇理須恒雄、部長 東京大学 樋口秀男〕

共催：分子科学研究所、新学術領域 ナノメディシン分子科学

聴講希望連絡先：

名古屋大学革新ナノバイオデバイス研究センター

浦部陽子 Email: y.urabe@nanobio.nagoya-u.ac.jp

Tel: 052-747-6752

開催趣旨

細胞核内反応については、ここ20数年分子生物学の分野で詳細な研究が進められてきた。最近では、たんぱく質をコードしていないRNA(noncoding RNA)が宇宙のダークマターになぞられて、ゲノミックダークマターとして盛んに研究が進められている。これらの研究は、研究が活発化しているナノメディシン(ナノ科学と医学・医療の融合領域)分野においても、難病とされている多くの疾患に関連しているとして、注目され始めている。

ナノ学会のナノバイオメディシン部会、新学術領域ナノメディシン分子科学および化学会の核酸化学などにおいて関連する研究成果の発表がなされ始めている。特にイメージング、NMRによるたんぱく質の構造解析、網羅的な遺伝子配列解析、計算機シミュレーションなどにおいて、細胞核内反応の先端的研究が進行しつつある。すなわち、分子生物学と分子科学の新しい境界領域が新たに開かれ始めているといえる。

このような状況下でナノバイオおよびナノメディシンに興味を持つ研究者の間で、

1. イメージング、NMR、合成化学、高分子化学、ナノテクノロジー、計算機シミュレーションなどそれぞれの分野で活躍しているナノバイオ・ナノメディシン研究者が集まり、お互いの研究の発表と討論を通して、視野を広げるとともに、共同研究などによる、より強力な研究推進の機会を作る。
2. 分子生物学や医学の分野の優れた関連研究者を招聘し、講演を御願ひし、討論と学習の機会を作る。

ことを主たる目的として、研究会を開催する。

講演プログラム

講演者(敬称略)	所属
講演タイトル[仮]	
石原 一彦	東京大学大学院工学系研究科 「ポリマーバイオマテリアル細胞内化学反応」
三宅 淳	大阪大学基礎工学研究科 「細胞場における RNA の動態解析、遺伝子発現の制御システムの解析」
山下 雄史	東京大学先端科学技術研究 「分子動力学シミュレーションの可能性と創薬センターへの応用」
平岡 泰	大阪大学大学院生命機能研究科 「細胞核ダイナミクス」
小澤 岳昌	東京大学大学院理学系研究科 「生体分子の機能および動態の可視化、細胞内シグナル伝達新規分子種同定」
佐藤 薫	東京大学大学院理学系研究科 「RNA サイレンシング」
浅沼 浩之	名古屋大学大学院工学系研究科 「核酸化学」
河野 秀俊	日本原子力研究所 「シミュレーションによる動的クロマチンダイナミクス」
原田 昌彦	東北大学大学院農学研究科 「ゲノム変動を制御するクロマチン核内空間配置メカニズムの解明」
ピーターカールトン	京都大学物質-細胞統合システム拠点 「染色体の反応、超解像顕微鏡」
宮成 悠介	自然科学研究機構統合バイオサイエンスセンター 「核内ゲノム動態」